

平成21年度病害虫発生予察注意報第2号

平成21年7月29日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

7月以降、曇りや雨の日が多く、フタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生に好適な天候が続いていることから、中間地～山間地のほ場において幼虫による食害が急増している。今後も本種の増殖に好適な気象条件が続くと予想されるため、防除を徹底する必要がある。

病害虫名：フタオビコヤガ

- 1 対象作物 水 稲
- 2 発生地域 中間地～山間地
- 3 発生量 多 い
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬の定点巡回調査の結果、フタオビコヤガの発生ほ場率は66.3%(平年：21.4%)であり、平年より多い発生となっている。
 - (2) 7月以降、本種の発生に好適な気象条件が続いており、発生量が急増している。
 - (3) 7月28日現在、中間地～山間地の発生ほ場では、一部のほ場で要防除水準に達しており、今後、防除の必要なほ場がさらに増加することが予想される。
 - (4) 7月24日発表の気象庁1か月予報によると、期間の前半を中心に日射量が少ない状態が続くと見込まれており、本種の増殖に好適な条件がしばらく続くと予想される。
- ### 5 防除上注意すべき事項
- (1) 風通しの悪いほ場、葉色の濃いほ場、遅植え又は中生品種栽培ほ場などでは、本種が多発しやすいので注意が必要である。
 - (2) 本種の発生は、ほ場間差及び地域間差が大きい。したがって、本種が多発しやすいほ場を中心に発生状況を経時的に観察し、下記の基準を超えた場合は直ちに防除を行う。
防除基準(暫定版)： 発生の主体が1.2cm以上の幼虫、被害株率90%以上、食害葉面積率10～20%以上の3つの基準をすべて満たした場合。
 - (3) 防除基準を超えたほ場において、防除時期が穂ばらみ期にあたる場合は、殺虫殺菌混合粉剤などを用いた穂いもち等との同時防除も可能である。
 - (4) 穂いもち等との同時防除薬剤を穂ばらみ期より前に散布すると、穂いもち防除効果が著しく低下する。

(別表) フタオビコヤガ対象の防除薬剤例

薬剤名	使用時期 (収穫前日数)	使用回数 (回以内)
エルサン粉剤3DL	7	2
パダン粉剤DL	21	6
トレボン粉剤DL	7	3
ロムダン粉剤DL	14	2
MR・ジョーカー粉剤DL	7	2
ダントツ粉剤DL	7	3
ダントツH粉剤DL	7	3
スタークル粉剤DL	7	3
アルバリン粉剤DL	7	3